

海水資源・環境シンポジウム 2017

URL : <http://www.swsj.org/research/research-06.html>

主催 : 日本海水学会 海水資源・環境研究会
協賛 : (一財) 造水促進センター, (一社) 日本粉体工業技術協会晶析分科会, (一社) 膜分離技術振興協会,
(公社) 化学工学会, (公社) 環境科学会, (公社) 日本水環境学会, 日本イオン交換学会,
日本ソーダ工業会, 日本脱塩協会, 分離技術会, 日本海水学会若手会 (いずれも予定)

日時 : 2017年5月11日(木) 13 : 00~17 : 10

セミナー終了後, 技術交流会を開催いたします。

場所 : 千葉工業大学津田沼キャンパス 7号館 4F 7402 教室

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1

J R総武線/津田沼駅(南口)下車 徒歩1分

京成線/京成津田沼駅下車 徒歩15分

新京成線/新津田沼駅下車 徒歩3分

<http://www.it-chiba.ac.jp/institute/access/tsudanuma.html>

◇次ページのアクセスマップを参照ください◇

概要 :

[1] 研究会の方向性について (13 : 00~13 : 30)

千葉工業大学工学部 教授 尾上 薫 氏

海水の総合利用を展開する上で資源の回収、エネルギーの有効利用、環境の保全は切り離せない内容である。これらのテーマをもとに海水の利用技術に関する可能性を幅広く探索する。

[2] 海水利用プロセスと溶存資源の回収技術 - Mg化合物を例として (13 : 30~14 : 20)

東京農工大学大学院工学府 教授 滝山 博志 氏

製塩および淡水化プロセスを中心とした、海水の高度利用システムを検討するための海水資源利用に関する技術レビューを紹介する。また、マグネシウム化合物を例に、その回収プロセスを構築するために必要な基礎データを、晶析操作の観点から整理した結果を報告する。

[3] 海水溶存資源の回収とマグネシウム化合物製造技術 (14 : 20~15 : 10)

ナイカイ塩業(株) 品質保証部・研究開発部 部長 吉澤 秀和 氏

周囲を海に囲まれた我が国にとって海水は貴重な資源である。これまで弊社では、海水に含まれるナトリウムイオンに着目し塩作りを行ってきた。本講演では、海水溶存資源の分離・精製の観点から、現在弊社工場で製造している各種マグネシウム化合物の製造プロセスを中心に紹介する。

< 休 憩 (15 : 10~15 : 30) >

[4] ソーダ工業における塩の役割 (15 : 30~16 : 20)

(株)トクヤマ 化成品第一製造部 主席 田畑 一昭 氏

ソーダ工業は、塩を原料として幅広い産業分野の原料・副原料などに使われる化学薬品を製造する工業で、基礎素材産業の一つである。塩を起原料としているソーダ工業について、製品及びその製法や用途例も交えて紹介する。

[5] 選鉱・製錬技術から見た海底資源の可能性 (16 : 20~17 : 10)

東京大学生産技術研究所 特任教授 中村 崇 氏

現在我が国で海底熱水鉱床のプロジェクトが進行している。関連する研究開発内容は必ずしも明らかになっていない。本講演では、詳細な内容の紹介はできないが、選鉱製錬プロセスの構築の考え方を紹介する。特に新規プロセスが必要なのか従来設備で対応できるのかが重要な意味を持つことを説明する。

技術交流会 (17 : 20~18 : 30) [3号館食堂2F]

参加費：3,000円

申込方法：氏名、所属、連絡先（住所、電話番号、E-mail）を以下の申込先にE-mail等でご連絡下さい。

申込・問合せ先：〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂4-13-20

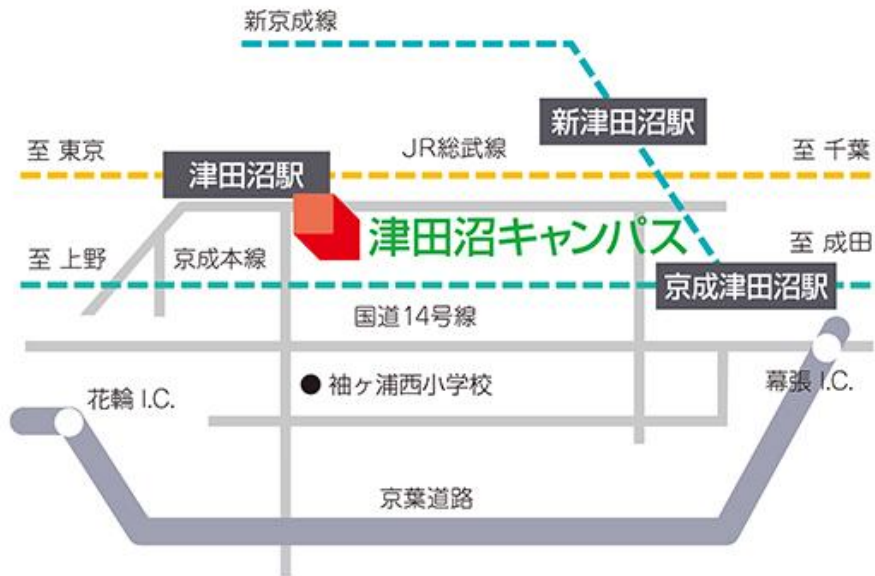
公益財団法人塩事業センター海水総合研究所（担当：加留部、邑上）

E-mail: shigen@swsj.org , Tel: 0465-47-3161

申込締切：5月8日（月）

当日の問合せ先：090-3473-5113(邑上)

千葉工業大学津田沼キャンパスアクセスマップ



千葉工業大学津田沼キャンパス内マップ

